

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

(発行)

会報

第120号

平成29年7月発行

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会
〒106-0012 東京都港区芝大門1丁目10番1号
(全国たばこビル内6階)
電話 (03) 6721-5710
FAX (03) 6721-5711
ホームページアドレス <http://www.zsp.jp/>

ご挨拶

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

会長 竹内ふき子

(東京都立城北特別支援学校PTA会長)



昨年度より引き続き会長を務めさせていただきます。

東京都立城北特別支援学校PTA会長の竹内ふき子です。どうぞよろしくお願いたします。

また新しい年度を迎えました。一年は何と早いのでしょうか。子ども達の成長も早く感じますね。そして、肢体不自由の子供を育てる私たちを、取り巻く環境も、目まぐるしく変わってきています。

私たちはこれまでの多くの方の、行動と努力の上にあります。そして私たちの行動も次へと繋がります。どんなことに、どんな未来を願って活動するのか。何をどう見つけるのか。自分自身で経験することが必要です。大きな事柄でなくても、沢山の気づきが生まれるPTA活動です。そしてその役割は子供たちの成長と育成にとっても大きなものです。PTAの取り組みに自信を持って、そして自慢して、今年度の活動の力に変えましょう。

今年度本連合会は60周年を迎えます。この節目となる年、8月20日21日に行われます東京大会が60周年の記念大会になります。東京都の肢体不自由特別支援学校PTA連合会に加盟している17校が実行委員として準備にあたっています。

この2日間で217校の皆さんと直に繋がりを感じ、活動の力になることを願っております。

今年度も沢山の情報の発信を皆さんへそして皆さんからも届きますように、お待ちしております。

どうぞよろしくお願い致します。

「つなぐ、つなげる、つながる」

～ 肢体不自由教育の広がる未来 ～

第60回全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会総会
第53回関東甲越地区肢体不自由特別支援学校PTA連合会
PTA・校長会合同研究大会「東京大会」

日時：平成29年8月20日(日)・21日(月)の2日間

場所：文京シビックホール・東京ドームホテル

内容：8/20 ・基調講演 ・第60回記念シンポジウム

8/21 ・第60回記念講演 ・6つの分科会 ・ワークショップ



「特別支援教育の生涯学習化」を実感できる社会に

全国肢体不自由特別支援学校長会

会長 田村 康二郎

(東京都立光明学園 統括校長)



今年度も全肢長会の会長として、全国の校長会員を代表して、全肢P連本部の相談役を務めます。どうぞよろしくお願いいたします。全肢P連と全肢長会は、共に昭和33年（1958年）の創立から約60年にわたり、肢体不自由児の教育推進や取り巻く教育環境の充実を目指して、二人三脚で歩んできた誇るべき歴史があります。この蓄積を誇りとして本年度も諸事業を展開してまいりますので皆様の御協力をお願いします。

さて今年度のスタートにあたり、特筆すべき大きな国の動きがありました。4月7日に松野博一文部科学大臣が発表されたメッセージ（抜粋）を以下に御紹介します。

「私がかねてより、障害のある方々が、この日本の社会でどうしたら夢や希望を持って活躍していくことができるかを考えてきました。その中でも印象的だったのが、特別支援学校での重い知的障害と身体障害のある生徒とその保護者との出会いです。その生徒は高等部3年生で、春に学校を卒業する予定であり、保護者によれば、卒業後の学びや交流の場がなくなるのではないかと大きな不安を持っておいででした。他にも多くの保護者から同様のご意見をいただきました。これまでの行政は、障害のある方々に対して、学校を卒業するまでは特別支援学校をはじめとする「学校教育施策」によって、学校を卒業してからは「福祉施策」や「労働施策」によって、それぞれ支援を行ってきました。しかし、これからは、障害のある方々が、学校卒業後も生涯を通じて教育や文化、スポーツなどの様々な機会に親しむことができるよう、教育施策とスポーツ施策、福祉施策、労働施策等を連動させながら支援していくことが重要です。私はこれを「特別支援教育の生涯学習化」と表現することとしました。文部科学省では、このような観点から昨年12月に「文部科学省が所管する分野における障害者施策の意識改革と抜本的な拡充」を公表しました。併せて、省内の体制を確立するために「特別支援総合プロジェクト特命チーム」を設置しました。さらに、今年度から生涯学習政策局に「障害者学習支援推進室」を新設しました。今後、この「障害者学習支援推進室」を中心に全省的に「Specialプロジェクト2020」や特別支援学校等における地域学校協働活動の推進、卒業後も含めた切れ目ない支援体制の整備の促進、障害のある学生への大学等における支援体制の充実等に取り組んでいきます。（中略）改めて、国と地方公共団体、企業に加えて地域の皆さまとともに、障害のある方々がわけ隔てなく、互いに尊重し合いながら共生する社会の実現を目指していきたいと強く願います。」

生徒と保護者の声が原動力となり世の中が大きく動き出します。つまり今年度は「特別支援教育の生涯学習化元年」なのです。第60回全肢P連・全肢長会合同研究大会「東京大会」を飛躍の契機として、両会が一層協力し合いながら、全会員が生涯学習の施策を実感できる社会となるように力強く進んでいきましょう。

—新ブロック長のご紹介—

平成 29 年度全国肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会北海道・東北ブロック長になりました福島県立平支援学校 PTA 会長の赤津修です。

6月8日(木)、9日(金)に第49回目となる本ブロックの肢体不自由教育校長・PTA 会長合同研究協議会(福島大会)を郡山支援学校、郡山ビューホテルにて開催いたしました。PTA 会長部会研究協議会では、4つのテーマを中心に PTA の活性化や緊急時対応等について多くの意見が交わされました。大会開催においては、会員の皆様方からの多大なる御協力を賜り、大盛況の中、会を執り行うことができました。この1年間、各ブロック長の皆様と協力し、ご指導・ご助言を頂きながら精一杯務めて参りますので、よろしくお願いいたします。

北海道・東北ブロック長 **赤津 修**
(福島県立平支援学校 PTA 会長)



今年度、関東・甲越地区ブロック長になりました、東京都立城南特別支援学校 PTA 会長の高橋千恵と申します。

今回このような大役をいただき大変緊張していますが、各ブロック長の皆様と協力し、教えていただきながら精一杯務めたいと思います。

多くの皆様と繋がり、子ども達の学校生活や、地域での暮らしがより豊かになる情報をたくさん得られるようお願いしております。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

関東・甲信越ブロック長 **高橋 千恵**
(東京都立城南特別支援学校 PTA 会長)



平成 29 年度中部ブロック長を務めさせていただきます、福井県立福井特別支援学校 PTA 会長の清水かおりと申します。皆様どうぞ宜しくお願い致します。

本校は昨年度、創立 50 周年を迎えました福井県内唯一の肢体不自由特別支援学校です。今年度の中肢 P『福井大会』を無事成功出来たことは、中肢 P 連の皆様の温かいご協力のお陰です。ありがとうございます。また平成 30 年度 第 61 回全肢 P 連は『福井大会』となりますので、皆様どうぞご参加いただけますようお願い致します。大変至らないところもある会長ですが精一杯頑張りたいと思っております。どうぞ皆様、宜しくお願いいたします。

中部ブロック長 **清水 かおり**
(福井県立福井特別支援学校 PTA 会長)



近肢 P 連では、各校の PTA 相互の協調を図るとともに全国肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会と連携し、肢体不自由教育の発展と PTA 活動の向上を目的に活動を行っています。

近畿 2 府 4 県、56 校が加盟しており、総会や夏季研修会、冬季研修会、交流会を行っています。研修会では、各校の現状をレポートにまとめ発表したり、児童生徒の生活や卒業後の進路について講演会の開催や意見交換を行うなど、情報を共有しながら肢体不自由教育の発展に努めています。

近畿ブロック長 **平山 まゆみ**
(兵庫県立のじぎく特別支援学校 PTA 会長)

今年度、中国・四国地区のブロック長になりました高知県立高知若草養護学校 PTA 会長の西森里香です。本校は、自然豊かな高知市南部の春野町にあります。6 月には、学校のすぐ前の水路沿いに町の花である紫陽花が咲き乱れ、別名「あじさい街道」と呼ばれ、多くの人々が観賞に訪れる名所となっています。県内全域を校区とした肢体不自由特別支援学校で、小学部、中学部、高等部の 3 つの学部が設置されています。児童生徒の笑い声と笑顔があふれる学校です。不慣れな部分もたくさんあり、お力添えをいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

中国・四国ブロック長 **西森 里香**
(高知県立高知若草養護学校 PTA 会長)



佐賀県金立特別支援学校の PTA 会長 2 年目になります。
子供は小学部から通学し、今年高等部に進学しました。早 10 年になります。

九州ブロック長 **堤 範子**
(佐賀県立金立特別支援学校 PTA 会長)



学校に毎日元気に通うことが目標で、入退院は何回か繰り返しましたが、ほぼ 80 点くらいの達成度だと思います。私の生活は、金立在学の娘の上にもう 2 人娘がおり、3 人の子供達+主人中心の毎日です。家と仕事場と学校の往復で何の変哲もない毎日ですが、一生懸命頑張っているのも私 80 点くらいです。残り 20 点は、子離れして自分磨きができるようになったら追加できると楽しみにしています。

—新規加入校のご紹介—

愛媛県立宇和特別支援学校 肢体不自由部門

宇和特別支援学校は、愛媛県の南西部に位置する西予市にあり、平成二十一年度に宇和聾学校と宇和養護学校が組織統合され誕生しました。平成二十七年度には、肢体不自由部門が開設され、聴覚障がい部門、肢体不自由部門、知的障がい部門という三つの部門がある特別支援学校です。学校近隣には江戸時代の建築様式が多数残る「中町（なかのちょう）」の町並みや、明治十五年に建てられた、四国最古の小学校である「開明学校」などがあります。また、学校の周囲は自然が豊かで、児童生徒は落ち着いた環境の中で学校生活を送っています。

このような環境の中、肢体不自由部門では、「教育相談、支援体制の充実」「教育課程の見直しと一貫教育の推進」「生活力、働く力の育成」「地域との連携」を特色ある学校づくりの柱としています。本部門の児童生徒数は年々増加傾向にあり、平成二十九年度は二十一名が在籍し、一人一人の児童生徒のニーズに応じたきめ細やかな指導支援を行っています。また、愛媛県南部（南予地域）の肢体不自由教育の中心として、外部からの教育相談、地域の学校への訪問・助言、研修支援等を行うなど、地域に根付いた取組を行っています。本部門は、今後もセンター的機能の充実を図ることや児童生徒が安全・安心に学校生活を送ること、開かれた学校づくりを行うこと等を目指して地域とともに歩んでいきたいと思ひます。



— 「60周年記念 東京大会」に向けて —



〈つなぐ、つなげる、つながる〉を合言葉に

第60回全肢P連「東京大会」実行委員長
東京都立北特別支援学校
PTA会長 向野 りさ

第60回全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会、PTA・校長会合同研究大会「東京大会」の実行委員長を務めさせていただきます、東京都立北特別支援学校PTA会長向野りさです。小6の娘が通っています。この年に会長をお受けすることは、身の引き締まる思いです。何かのご縁と思い精一杯務めさせていただく所存です。

PTA会長になり数か月が過ぎました。恥ずかしながら大会の準備を通して、全国のPTAとつながっている事に驚きました。そして、私たちが当たり前のように過ごしていることは、肢体不自由の子供たちに関わる先人の方々の情熱と苦勞の果てに、今の子供たちの教育環境、制度、生活、未来の選択がある事を知ることができました。大会の研究主題は肢体不自由のある子供たち一人一人の生きる力を育むために、PTA活動はどうあるべきか「つなぐ、つなげる、つながる」～肢体不自由教育の広がる未来～です。未来の子供たちへ、保護者の皆さんへ、私たちは一歩ずつ歩みを進め、子供たちの明るい未来へつなげていけるように、このバトンを渡します。

昨年4月に「障害を理由とする差別の解消の促進に関する法律」（障害者差別解消法）が施行されました。障害の有無によって隔てられることなく相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現と整備が進められています。このように障害者を取り巻く環境が変化する中、2020年オリンピック・パラリンピックが東京の地で開催されます。ハード面のバリアフリーは比較的進みつつある一方、求められるのは、心のバリアフリーと言われています。私たち自身が障害について一人でも多くの人に知ってもらいたいと思うその事が、次のステップにつながるのではないのでしょうか。

この「東京大会」は東京都にある17校で準備、運営を進めてまいりました。皆が大会の成功に向け一丸となり、取り組んできたからこそ、最後まで頑張れるチームができました。また、少しでも東京を味わってもらいたいと、懇親会では懐かしい時代のものや未来を感じられる企画を用意しています。皆さまの心に残るような2日間になりますよう、また楽しんでいただけたら幸いです。

スタッフ一同 〈つなぐ、つなげる、つながる〉を合言葉に、ピンクのポロシャツを着ておもてなしいたします。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



東京大会から新たなつながりを！

第 60 回全肢 P 連「東京大会」実行委員会主管校
東京都立北特別支援学校
校長 國保 とも子

全肢 P 連の「60 周年記念東京大会」まであと一か月余りとなりました。この記念すべき大会を、30 周年、40 周年に続きここ東京で開催することができて大変光栄です。

60 周年と申しますと、私が生まれる前からその歴史が始まっています。全肢 P 連大会のテーマからその歴史を見てみますと、養護学校義務制への願い、障害の重度化に伴う PTA 活動の在り方、共に生きる豊かな国づくり、一人一人のニーズに応じた特別支援教育と共生社会づくり、等がテーマとしてあげられており、全肢 P 連の活動が教育の保障を願う学校づくりから、子供が一人の人間として豊かに生きていくための社会づくりへと、時代のニーズに応じた PTA 活動を推進してきたことがうかがわれます。その活動は、養護学校義務制につながり、中央教育審議会「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」の開催に際し文部科学省からの委員委嘱や、厚生労働省からの委員委嘱を受けるなど、全肢 P 連の活動は国からも認められたものとなっています。子供たちの豊かな未来のためにと親の思いが脈々と受け継がれ、その時代時代の願いを一つ一つ形にして、少しもぶれることなく今日に至っているというのは本当にすごいことだと思います。そしてその歴史ある全肢 P 連の結成 1 年後からずっと寄り添い共に歩んできたのが現在の全国特別支援学校肢体不自由教育校長会です。校長会と全肢 P 連が子供と社会への願いを一つに相互の役割を尊重しながら協働を進めてきたことでしょう。毎年全国各地を回り開催される全肢 P 連大会で、次への活力を養い絆を深めながら今日に至っているものと思っております。

さて、平成 29 年度はここ東京の地で開催されます。東京には肢体不自由教育を担う学校は都立で 18 校、区立 1 校、国立で 1 校の特別支援学校があります。この中の 5 校が事務局校となり、各校の PTA 会長、大会事務局の保護者の方はもちろんのこと、20 校の校長も保護者とともに、60 周年記念にふさわしい東京ならではの大会となるよう知恵を出し合い、全国の皆様をお迎えする準備を進めてまいりました。

東京大会では記念講演としてゴルゴ松本氏による「出張！ゴルゴ塾、命の授業」、菊池桃子氏による大会記念挨拶をいただくことになっております。そして懇親会では東京ならではのイベントも用意しております。全国の皆様が肢体不自由教育の広がる未来のために大いに語り合い、つながり合えることを切に願い、全肢 P 連発祥の地、東京から皆様のお越しを心よりお待ちしております。

編 集 後 記

日頃から全肢 P 連にご協力ありがとうございます。

平成 29 年度最初の会報をお届けします。竹内会長、田村校長と 6 ブロック長（北海道・東北、関東・甲越、中部、近畿、中国・四国、九州）の挨拶を載せました。

全国大会は東京が会場です。全肢 P 連は 60 周年を迎えます。主管校の PTA 会長、校長に大会のテーマや熱い思いを述べていただきました。

全肢 P 連事務局職員も現在 3 名体制になりました。皆様のお力をお借りしながら頑張っていきたいと思っております。（文責 事務局長 岩井英子）